

平成28年度 徳島県立池田高等学校(全日制) 学校評価 総括評価表

No. 3

本年度の重点目標	課題	活動計画	評価指標	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	評価	評価	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
3 自尊感情と規範意識の醸成に努め、基本的生活習慣の確立した心身ともに健康でたくましい生徒を育成する。	① 人権意識の涵養と高揚	1 「池高人権の日」を設定し、日常生活の中で生徒の人権意識が涵養するように努める。	啓発プリントを用いた人権委員によるホームルーム啓発回数 年10回以上	啓発プリントを用いた人権委員によるホームルーム啓発回数は年10回(前年度10回)であった。生徒が身近に感じて主体的に活動できるように様々な視点を取り入れた。	A	B	(評定) B	団体競技の部活動では、レスリング・山岳・ハンドボール・弓道が本年度の全国大会に出場したが、他にもバレーボール・ソフトテニスなどが県内で上位入賞して頑張っている。	様々な視点に立った啓発プリントを作成し、それを活用することで生徒が自然と人権感覚を身につけられるよう工夫する。
		2 人権学習ホームルーム活動や人権講演会・人権意見発表会などを実施し、人権意識が高揚するよう内容の充実を図る。	生徒アンケート「人権学習ホームルーム活動等により人権意識が高揚した」80%以上	生徒アンケートの肯定的評価は80%(前年度69%)であった。生徒の内的変化が起こるように、本年度は進路課とタイアップした講演会を実施した。	B				
	② 生徒の悩み・いじめ・問題行動の早期発見と適切な対応	1 特別支援教育の視点を大切にして、相談箱の設置や教育相談日の設定を行い、担任・各学年・各課が連携して組織的に対応する。	生徒・保護者アンケート「相談に学校は誠実に対応してくれている」80%以上	生徒・保護者アンケート「相談に学校は誠実に対応してくれている」80%以上	アンケートの肯定的評価は生徒79%(前年度73%)、保護者85%(同85%)であった。担任、学年、人権・相談課が連携して組織的に対応した。	B	B	(所見) 基本的な生活習慣の確立が図られ、爽やかな校風の継承に努めた。また、校内美化の徹底に努めた。エコ活動の推進が図られた。しかし、救急処置体制の確立については改善を図る必要がある。	生徒の現状を考慮した主題設定により、生徒自身が人権意識が高揚したと実感できる教育内容とする。 特別な支援が必要な生徒の実態把握に継続的に努め、相談室を生徒や保護者の相談の場として活用できるよう工夫する。
		2 生徒理解懇談会の開催や生徒生活実態調査の実施により、いじめ等の問題行動の未然防止や早期発見への取組、問題行動が発生した際の迅速かつ適切な対応に努める。	生徒生活実態調査の実施回数 年2回	生徒生活実態調査の実施回数は年2回(前年度年2回)であった。調査結果を教職員に周知し、適切な対応に努めた。	B				
	③ 基本的な生活習慣の確立と爽やかな校風の継承	1 毎日校門前で登校指導を実施し、挨拶の励行や遅刻の防止など、基本的な生活習慣の確立を図る。	1日当たりの遅刻者数 生徒数0.3%以内	1日当たりの遅刻者数は1.03人(前年度1.00人)で生徒数0.19%(同0.18%)であった。生徒指導課・副担任の教員を中心に、登校指導を毎日実施した。	A	A	A	地域と連携して炊き出し体験などを行っているが、生徒の皆さんには是非とも地域防災のリーダーとなって活躍してほしい。生徒の皆さんには地域の中で果たせる役割があるということを知ってほしい。	毎日の登校指導を継続し、遅刻者数をさらに減少させるように努める。 女子生徒のスカート丈については、販売店の協力も得ながら、粘り強く指導を行う。
		2 服装・頭髪等の身なりや礼儀について常時指導を行い、爽やかな校風の継承・発展に努める。	教職員アンケート「服装・頭髪の指導に効果が見られている」80%以上	教職員アンケートの肯定的評価は90%(前年度79%)であった。服装・頭髪等の身なりについては、特に学年集会で時間をかけて指導した。	A				
	④ 交通ルール遵守と交通安全意識の向上	1 自転車・原付等の通学別生徒集会を開催するとともに、日ごろのホームルーム活動で交通マナーや安全運転の指導を行う。	通学別生徒集会の開催回数 年3回以上	通学別生徒集会の開催回数は年3回(前年度年3回)であった。各学期の中で全校集会を利用して開催した。	B	B	A	阿波池田駅から学校までの登校マナーについては、特に重点を置いて指導していく。	
		2 毎月20日を学校安全の日とし、交通安全意識を向上させるとともに、街頭交通指導を実施する。	街頭交通指導の実施回数 月1回	街頭交通指導の実施回数は月1回(前年度月1回)であった。学校安全の日には生徒登校時、最寄り駅から学校までの5か所で教員が指導にあたった。	A				
	⑤ 健康教育の促進と救急処置体制の確立	1 定期健康診断結果を担任・養護教諭が共有し、生徒の健康教育の推進や治療の促進を図る。	『保健だより』の発行回数 年10回以上	『保健だより』の発行回数は年11回(前年度年11回)であった。『保健だより』には疾病予防や治療の必要性、将来に向けての健康管理等の記事を掲載した。	A	B	C	教職員・生徒ともに、緊急時対応の意識レベルの向上をめざし、学年集会やホームルーム活動などを通して啓発に努める。	
		2 AEDを含む救急処置実技講習会を実施するとともに、事故発生時の対応マニュアルの周知徹底を行う。	生徒アンケート「AEDの設置場所を知っている」100%、教職員アンケート「AEDで救急処置ができる」100%	アンケートの肯定的評価は生徒75%(前年度74%)、教職員100%(前年度97%)であった。教職員を対象にAEDを含む救急処置実技講習会を実施した。事故発生時の対応マニュアルの周知徹底は職員会議で行った。	B				
	⑥ 健全な心身を育成する部活動の推進	1 生徒が自主的・積極的に部活動に参加し、知・徳・体のバランスがとれた成長が促されるよう指導する。	部員アンケート「充実した部活動を送ることができた」80%以上	部員アンケートの肯定的評価は87%(前年度84%)であった。学業の両立、人間性の成長に十分に配慮し指導した。	A	B	B	事故や怪我への対応方法・連絡体制について、全教職員が理解・対応できるように徹底を図る。	
		2 部活動中における事故や怪我への対応方法、連絡体制について、全教職員が理解し、対応できるようにする。	教職員アンケート「事故への対応方法・連絡体制を理解している」100%	教職員アンケートの肯定的評価は97%(前年度95%)であった。研修会で事故や怪我への対応方法・連絡体制について確認した。	B				
⑦ 校内美化の徹底とエコ活動の推進	1 全校生徒が清掃に取り組むよう、全教職員による清掃指導を行い、快適な学習環境の整備に努める。	生徒・教職員アンケート「(生徒は)まじめに清掃に取り組んでいる」80%以上	アンケートの肯定的評価は生徒91%(前年度85%)、教職員97%(同90%)であった。全生徒・全教職員でゴミの落ちていない学校をめざして清掃に取り組んだ。	A	A	A	生徒一人一人が分別を実践できるように意識を高めていく。また、活動を継続して地域へと広げていく。		
	2 新学校版環境ISOの取組を通してゴミの分別を徹底するとともに、地域環境美化活動等を行い、エコ意識の高揚を図る。	生徒・教職員アンケート「ゴミの分別ができていく」80%以上	アンケートの肯定的評価は生徒94%(前年度93%)、教職員100%(同90%)であった。1・2年生による地域環境美化活動を12月に行った。また、JRC部が中心となり校内外の清掃活動を定期的に行った。	A					
⑧ 安全・安心な学校環境の提供と防災意識の向上	1 校内巡視を日々行って危険箇所等を把握し、安全・安心な学校環境の提供に努める。	校内巡視の実施回数 1日3回以上	校内巡視の実施回数は1日3回(前年度1日3回)であった。朝のホームルーム前、昼食時、放課後の3回実施した。	A	B	B	今後も防災クラブの活動を継続し、防災意識を向上させ、災害発生時のリーダーとなる人材を育成する。		
	2 防災に関する研修会や防災訓練を通して、生徒の防災意識を向上させるとともに、災害遭遇時の対応等を身につけさせる。	防災に関する研修会の開催回数 年2回以上	防災に関する研修会の開催回数は年2回(前年度年2回)であった。災害時の応急処置と炊き出し体験等を研修した。防災訓練の実施回数は年2回(前年度年2回)であった。火災想定と地震想定防災訓練を各1回実施した。	B					

【備考】 「評価」及び「総合評価の評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった